3-4. 自然再生の目標

全体構想においては、対象区域における自然再生の目標を、地域における客観的かつ科学的なデータを基礎として、できる限り具体的に設定する必要があります。

記載項目の例

- 地域の自然環境の課題や変遷の分析を踏まえて、「自然再生の目標」をわかりやすい形で記載します。

解 説

（１）「自然再生の目標」検討における留意事項

➢ 自然再生の目標の設定にあたっては、地域における客観的かつ科学的なデータを基礎とし、地域の自然環境の変遷や課題の分析を踏まえて検討を行いましょう。例えば、「過去の特定の時期の状況を目標とする」や「地域の特徴的な種や生態系の状態に着目して目標を設定する」などの方法が考えられます。

➢ 過去の特定の時期の自然の状態を目標とする場合には、当時の状況を把握できる資料（調査結果、文献、写真等）を整理する以外に、時には古文書や地域の長老へのヒアリング等を通じて明らかにすることも効果的です。

➢ 持続的に良好な状態を維持することが技術的にも社会経済的にも実現可能な自然環境を自然再生の目標として設定しましょう。

➢ 自然再生の目標は、地域の社会的条件や自然環境の現況や過去の状況等に応じて柔軟に定められるべきであり、個々の自然再生事業予定地の範囲という観点だけでなく、ある程度まとまりのある地域全体の目標として定めるという観点も重要です。

➢ 自然の復元力やサイクルを踏まえた持続可能性を考慮して、長期及び短期の目標を設定することも有効です。

【長期・短期の目標を設定した事例】 石西礁湖自然再生全体構想

第3章　石西礁湖自然再生の目標

石西礁湖自然再生では、長期目標（達成期間：30 年）と短期目標（達成期間：10 年）を次のとおり定めることとします。

長期目標：人と自然との健全な関わりを実現し、1972 年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標：サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

このうち、長期目標は、「誰もがイメージしやすい、共有したい自然の姿」を示しています。石西礁湖の写真など、1972 年当時の様子を知ることができる資料や情報は多くは残っていませんが、サンゴのない場所を探す方が大変であったという話を聞きます（写真６）。

なお、長期目標のイメージを描いてみると、図 3-1のような感じでしょうか。

図 3-1　未来の石西礁湖のイメージ（石西礁湖自然再生マスタープランより）

➤ 自然再生の目標を対象区域の自然再生に関わる人々の「共通の希望・理想の姿」のように大きな目標で表現することで、関係者・地域住民の理解・認識が進むことがあります。ただし、そうした大きな目標だけでなく、進捗状況をモニタリングできるよう、指標種（目標生物）を設定するなどして、具体的な数値目標も設定することが必要です。

【大きな目標で表現した事例】 伊豆沼・内沼自然再生全体構想

(1) 目指すべき伊豆沼・内沼の姿

伊豆沼・内沼の将来像

○ 水環境が改善され，沈水植物（マツモ，クロモ等）や浮葉植物（ヒルムシロ，ジュンサイ，ヒツジグサ等）など豊かな水生植物群落が広がり，それらを生息環境とするエビ類などが回復した伊豆沼・内沼

○ 多種の水鳥・渡り鳥（ガン・カモ類）をはじめとし，在来魚介類（ゼニタナゴなど），昆虫類など，多様な生物が生息する伊豆沼・内沼

○ 周辺の農村環境や地域の人々の生活と共存し，湿地環境，湿原景観が次世代に継承されていく伊豆沼・内沼

※ 伊豆沼・内沼の将来像は，全体構想期間中に必ず達成しなければいけない評価目標というよりは，伊豆沼・内沼の自然再生に関わる人々の「共通の希望・理想の姿」として表現しています。

(2) 将来像実現に向けた基本理念とキャッチフレーズ

＜伊豆沼・内沼自然再生推進の基本理念＞

① 自然再生に当たっては，湖沼生態系の保全と回復を第一とする

② 人の活動と自然環境とが調和した二次的自然として望ましい姿を目指す

③ 自然環境の保全に十分配慮しながら，環境教育の素材として，また地域活性化の資源として，伊豆沼・内沼の賢明な利用*を推進する

④ 多様な主体が協働しながら一丸となって伊豆沼・内沼の自然再生に取り組む

＜キャッチフレーズ＞

伊豆沼・内沼らしさの回復

～かえってこい，ひと，みず，いきもの～

（人々に愛され親しまれるとともに，様々な生物が生息していた頃の伊豆沼・内沼へ再生しようという思いを表したもの。）

【地域づくりや環境教育等の観点を含めて地域全体の目標を設定している事例】

三方五湖自然再生全体構想

4.2　三方五湖流域とその周辺地域における自然再生の目標

三方五湖の豊かな自然は、周辺にすむ人々との関わりあいの中で守られてきました。三方五湖の自然再生は「自然の再生」を基盤に、自然と人のつながりや人と人とのつながりの再生を通じた「元気な地域」づくりを目指します。

三方五湖自然再生のビジョン

湖と里をとりまく自然と人のつながりの再生

かつての生きもののにぎわいと、人のにぎわいを取り戻すため、
　先人の知恵と努力に感謝し、
　　湖と人、人と人の関わりを見直しながら、
　　将来にわたって三方五湖の恩恵を受けることができる誇りある地域社会を実現します。

［３つのテーマと目標設定］

■テーマ１　多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全

目標設定

目標　１　三方五湖の湖岸では、治水機能を保ちながら、多様な生きものを育む自然豊かな水辺を取り戻します。

目標　２　湖岸から周辺里地では、ラムサール条約登録の理由となった魚類、多様な貝類、トンボ類、両生類、水鳥などや水草を育む水辺を取り戻します。

目標　３　フナやナマズが田んぼで産卵する姿がみられるように、湖～田んぼの生きもののつながりを取り戻します。

目標　４　自然豊かな水辺のシンボルとして、湖と田んぼを往来する水鳥の姿と豊かな魚類相が支える海ワシが舞う空を取り戻します。

目標　５　外来生物の姿が少ない水辺を目指します。

目標　６　三方五湖本来の水質浄化作用を回復させ、健全な水環境を取り戻します。

目標　７　里山から湖へと続く、三方五湖流域全体の保全・管理を図ります。

■テーマ２　「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわい再生

目標設定

目標　８　福井県内外で「ラムサール条約湿地・三方五湖」の知名度を高めます。

目標　９　三方五湖での魚介類の資源を高い水準で回復させ、魚介類の需要を向上し、安定的で持続可能な漁業を目指します。

目標１０　環境配慮型で、誰もが取り組みやすい農法の研究・普及を図ります。

目標１１　「三方五湖」を冠した魚介類・農作物などを活かした商品を四季を通じて流通させます。

目標１２　「三方五湖」を冠したエコツアーを年間を通じて開催します。

目標１３　三方五湖での環境浄化や漁業・農業とそれを活かした加工業、サービス業での就業意欲が高まる事業を創出します。

■テーマ３　生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承

目標設定

目標１４　四季折々に美しく、心安らぐ湖の風景を取り戻します。

目標１５　子どもの遊び声がにぎやかな水辺を取り戻し、子どもの頃から湖とふれあう機会を増やします。

目標１６　子どもたちが、三方五湖や周辺地域における伝統的な漁法や昔ながらの農法を体験・見学する機会を増やし、伝承します。

目標１７　子どもたちが、三方五湖や周辺地域の田んぼや水辺での環境教育活動に参加する機会を増やします。

目標１８　三方五湖について誰もが知り学べ、保全活動に参加できる場、機会を増やします。

目標１９　三方五湖の魚介類などの地域の食文化を掘り起こし、これを活用した地域行事が各地で開催されるようにします。

目標２０　三方五湖や周辺地域の自然や文化の素晴らしさを伝えるリーダーを育てます。

【ゾーンごとに目標を設定した事例】 上山高原自然再生全体構想

表 1　目標植生

	現状の植生	植生の現状と面積	目標 植生	目標 対象面積	備考
草原ゾーン（60ｈａ）	ススキ群落	上山山頂 、キャンプ場跡、石碑周辺（ 2.65 ha）	ススキ草原へ 推移帯へ	34. 4ha	○ｲﾇﾜｼの狩り場 ○ｽｽｷ草原の景観的価値
	チマキザサ群落	上山山頂周辺（19.79 ha）			
	ミズナラ－クリ群集ワラビ下位単位（低木林）	上山山頂周辺（15.37 ha）			
		集落から山頂への道沿い（14.63 ha）		6. 5ha	
	ミズナラ－クリ群集タンナサワフタギ下位単位（高木林）	集落から山頂への道沿い（ 2. 5 ha）			
森林ゾーン（313ｈａ）	ミズナラ－クリ群集タンナサワフタギ下位単位（高木林）	斜面下部・谷筋（121.75 ha）	ブナを主体とする落葉広葉樹林へ スギ林	306ha	
	ミズナラ－クリ群集ワラビ下位単位（低木林）	対象地南部・ブナ林を横断する形で分布（ 7.48 ha）			
	ブナ－ヒメアオキ群集	東部斜面、谷、南側（61.79 ha）			○ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏの生息地 ○冷温帯の生物多様性 ○尾根筋のﾐｽﾞﾅﾗ林はｲﾇﾜｼの餌場
	チマキザサ群落	南北にブナ林を横断する形で分布（ 2.90 ha）			
	スギ－ヒノキ群落	分収造林地（62.88 ha）			
		一般の人工林（35.70 ha）			
		町有林（約20 ha）		20ha	
	アカマツ－ユキグニミツバツツジ群落	尾根部に小面積（12.37 ha）	**アカマツ林（極相林）**	12. 37ha	○植林地
	トチノキ－ジュウモンジシダ群落	小又川渓谷沿い（3.95 ha）	**トチノキ林（極相林）**	3. 95ha	○貴重な動植物の生息地

【事例】 協議会の自然再生の目標の設定例

全体構想名	自然再生の目標の設定事例
釧路湿原自然再生全体構想～未来のこどもたちのために～	この地域に本来生息している生きものたちが絶滅することなく生きていける環境、そして私たちの暮らしに豊かな恵みをもたらす「水と緑の大地」を取り戻す。 1. 湿原生態系の質的量的な回復（生物環境） 2. 湿原生態系を維持する循環の再生（物理・化学環境） 3. 湿原と持続的に関われる社会づくり（社会・経済環境）
巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想	良好な生態系（環）、里地里山環境にあった人と自然との共生（和）、そして周辺の自然とつながり（輪）を取り戻し、後世に伝えるために『生命いのちにぎわう わ（環・和・輪）の湿地麻機』を目指す。 目標1:『良好な水環境の再生』（全体） 目標2:『在来種の保全と生態系のバランスを保つ』（環） 目標3:『人と自然との持続的な関わりづくり』（和） 目標4:『周辺とのネットワークづくり』（輪）
椹野川河口域・干潟自然再生全体構想	そこに生息する多様な生物群集により、生態系内における良好な物質循環が円滑に進み、干潟等が有する生物生産機能、生物生息機能、水質浄化機能及び親水機能などの多面的機能が高いレベルで持続的に保たれる状態、すなわち、人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場、いわゆる『里海』の再生を目指すこと。 ※さらに「具体的な目標」として、7区域のゾーニングごとと、全区域共通の目標（目指す状態）を具体的に設定（省略）
「命の環　つなげる」八幡湿原自然再生全体構想	キャッチフレーズ「命の環　つなげる」 ① 牧場造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系の再生を目指す。 ② 現在も湿地が残っている場所及び以前湿地が見られた場所はマアザミ群落やヌマガヤ群落に誘導する。地表水の多い場所はヨシ群落等に誘導する。 対象区域北部や水路沿いなどの湿潤な場所は，ハンノキ群落に誘導する。特に対象区域北部ではまとまったハンノキーマアザミ群落を再生する。 ③ 対象区域内の湿地と連続する乾燥地は，ススキ草地を維持する。 対象区域内の臥竜山の森林と連続する森林は，当面ミズナラ林へ誘導する。
森吉山麓高原自然再生全体構想	ア 短期的な目標（今後30年間の取り組み・・・・造成期） 森林の連続性に配慮しつつ、無立木地を出来るだけ少なくする。 イ 中期的な目標（50年後の森林の姿・・・・人の手から自然力へ） 人為的な森林管理の目標はこの頃までとし，以後は出来るだけ自然の営みに遷移を委ねる。 ウ 長期的な目標（100年後、そしてそれ以後の望ましい森林の姿・・・・・自然に近いブナ林の再現） 森の再生により、人々が森林を楽しむ空間が増えると同時に野生動物がより多く生息できることになり、森林浴、自然観察など、人と自然との新たな関係が構築され，県民と行政の協働による様々な活動が行われる。
阿蘇草原再生全体構想　阿蘇の草原を未来へ	＜目標＞ 草原の恵みを持続的に活かせる仕組みを現代に合わせて創り出し、かけがえのない阿蘇の草原を未来へ引き継ぐ。 ＜目指す姿＞ ・暮らしに恵みをもたらす草原　・人と生き物が共生する草原環境 ＜分野別目標＞ ①美しく豊かな草原の再生 ②野草資源でうるおう農畜産業の再生 ③草原に囲まれて人々が生き生きと暮らす地域社会の再生
中海自然再生全体構想	＜自然再生全体目標＞ 「よみがえれ，豊かで遊べるきれいな中海」を合言葉に、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築する。 ＜5つの推進の柱（大きな目標）＞ 1）水辺の保全・再生と汽水域生態系の保全 2）水質と底質の改善による環境再生 3）水鳥との共存とワイズユース 4）将来を担う子ども達と進める環境学習の推進 5）循環型社会の構築
久保川イーハトーブ自然再生事業全体構想	当該地域の望ましい里地里山の姿を「久保川イーハトーブ」と名づけ、そこに残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価するとともに、生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的なモニタリングと検討にもとづき、ていねいに取り除くことで、積極的に生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを全体の目標にする。

（２）「自然再生の目標」等の記載における留意事項

➢ 具体的な数値目標の記載に努めましょう

自然再生の目標は、地域における客観的かつ科学的データを基礎として、事後のモニタリングの実施により、必要に応じて計画を見直すなど「順応的管理」を行うために、できる限り具体的な数値目標で記載しましょう。

【事例】 数値目標を設定した事例

（竹ヶ島海中公園自然再生全体構想）

海中公園指定当時、エダミドリイシの高被度群集のあった範囲に設けられたモニタリング区画において、サンゴの被覆率が50%以上あり、その内のエダミドリイシの優占率が60%以上であること。

（上山高原自然再生事業全体構想）

上山高原及び周辺地域において、ススキ草原約35haを維持し、ブナを中心とした落葉広葉樹林の森約306haを再生すること。

➢ わかりやすい記載に努めましょう

地域住民等多くの人が全体構想を読み、自然再生の目標を認識・理解できるように、イメージ図等を活用しながら、専門家でなくても理解できるようなわかりやすい文章で記載しましょう。

【事例】ワンフレーズ・スローガン等を活用して目標を記載した事例

目標（将来像）を一言（キャッチフレーズ、スローガン等）であらわします

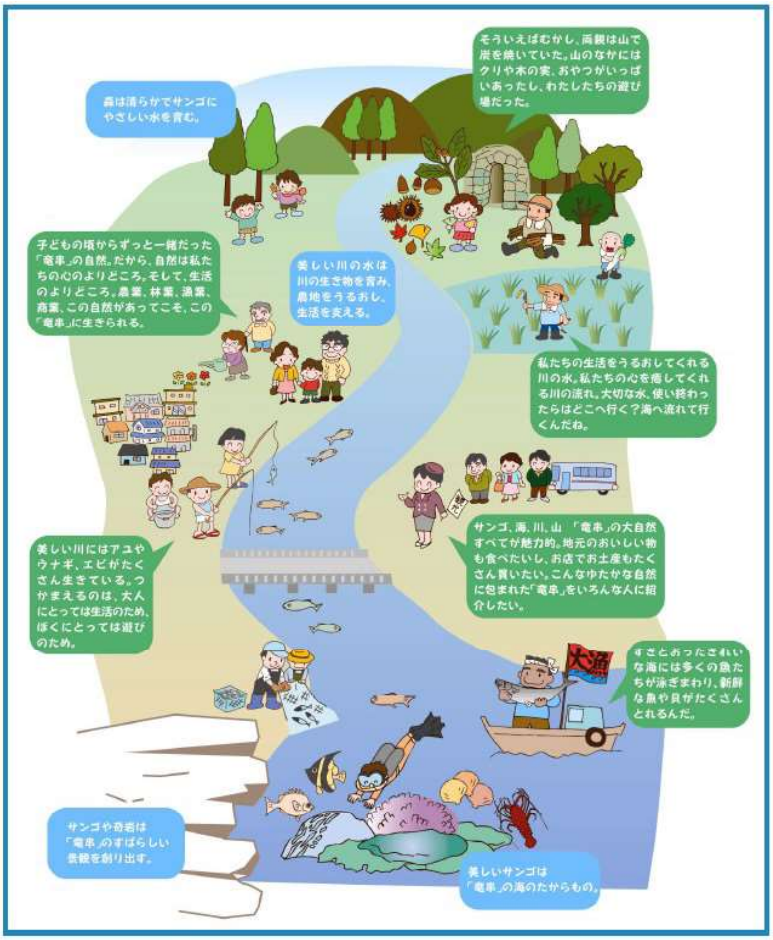
（多々良沼・城沼自然再生協議会全体構想）

「人と沼の絆の創造と再生」

（巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想）

「生命にぎわうわ（環･和･輪）の湿地麻機」

【イメージ図や概念図を活用して目標を記載した事例】竜串自然再生全体構想



チェックポイント

□ 全体構想に自然再生の目標は明示されていますか。